

特許協力条約

発信人 日本国特許庁（国際予備審査機関）

出願人代理人

神保 泰三

殿

あて名

〒 530-0043

大阪府大阪市北区天満 4 丁目 14 番 19 号

天満パークビル

神保特許事務所

PCT 見解書

(法第 13 条)
[PCT 規則 66]

発送日
(日.月.年)

出願人又は代理人

の書類記号 F1030086W000

応答期間

上記発送日から 2 月以内

国際出願番号

PCT/JPO3/03757

国際出願日

(日.月.年) 26.03.03

優先日

(日.月.年) 28.03.02

国際特許分類 (IPC) Int. Cl. G03B21/14, G03B21/16

出願人 (氏名又は名称)

三洋電機株式会社

1. これは、この国際予備審査機関が作成した 1 回目の見解書である。

2. この見解書は、次の内容を含む。

I ☒ 見解の基礎

II ☐ 優先権

III ☐ 新規性、進歩性又は産業上の利用可能性についての見解の不作成

IV ☐ 発明の単一性の欠如

V ☒ 法第 13 条 (PCT 規則 66.2(a)(ii)) に規定する新規性、進歩性又は産業上の利用可能性についての見解、それを裏付けるための文献及び説明

VI ☐ ある種の引用文献

VII ☐ 国際出願の不備

VIII ☐ 国際出願に対する意見

3. 出願人は、この見解書に回答することが求められる。

いつ? 上記応答期間を参照すること。この応答期間に間に合わないときは、出願人は、法第 13 条 (PCT 規則 66.2(d)) に規定するとおり、その期間の経過前に国際予備審査機関に期間延長を請求することができる。ただし、期間延長が認められるのは合理的な理由があり、かつスケジュールに余裕がある場合に限られることに注意されたい。

どのように? 法第 13 条 (PCT 規則 66.3) の規定に従い、答弁書及び必要な場合には、補正書を提出する。補正書の様式及び言語については、法施行規則第 62 条 (PCT 規則 66.8 及び 66.9) を参照すること。

なお 補正書を提出する追加の機会については、法施行規則第 61 条の 2 (PCT 規則 66.4) を参照すること。補正書及び/又は答弁書の審査官による考慮については、PCT 規則 66.4 の 2 を参照すること。審査官との非公式の連絡については、PCT 規則 66.6 を参照すること。

応答がないときは、国際予備審査報告は、この見解書に基づき作成される。

4. 国際予備審査報告作成の最終期限は、PCT 規則 69.2 の規定により 28.07.04 である。

名称及びあて先

日本国特許庁 (IPEA/JP)

郵便番号 100-8915

東京都千代田区霞が関三丁目 4 番 3 号

特許庁審査官 (権限のある職員)

信田 昌男

2M

8530

電話番号 03-3581-1101 内線 3274

I. 見解の基礎

1. この見解書は下記の出願書類に基づいて作成された。(法第6条(PCT14条)の規定に基づく命令に応答するために提出された差替え用紙は、この見解書において「出願時」とする。)

☐ 出願時の国際出願書類

☒ 明細書 第 1-8 ページ、 出願時に提出されたもの
明細書 第 _____ ページ、 国際予備審査の請求書と共に提出されたもの
明細書 第 _____ ページ、 _____ 付の書簡と共に提出されたもの

☒ 請求の範囲 第 1-12 項、 出願時に提出されたもの
請求の範囲 第 _____ 項、 PCT19条の規定に基づき補正されたもの
請求の範囲 第 13 項、 国際予備審査の請求書と共に提出されたもの
請求の範囲 第 _____ 項、 _____ 付の書簡と共に提出されたもの

☒ 図面 第 1-7 ~~ページ~~/図、 出願時に提出されたもの
図面 第 _____ ページ/図、 国際予備審査の請求書と共に提出されたもの
図面 第 _____ ページ/図、 _____ 付の書簡と共に提出されたもの

☐ 明細書の配列表の部分 第 _____ ページ、 出願時に提出されたもの
明細書の配列表の部分 第 _____ ページ、 国際予備審査の請求書と共に提出されたもの
明細書の配列表の部分 第 _____ ページ、 _____ 付の書簡と共に提出されたもの

2. 上記の出願書類の言語は、下記に示す場合を除くほか、この国際出願の言語である。

上記の書類は、下記の言語である _____ 語である。

- ☐ 国際調査のために提出されたPCT規則23.1(b)にいう翻訳文の言語
☐ PCT規則48.3(b)にいう国際公開の言語
☐ 国際予備審査のために提出されたPCT規則55.2または55.3にいう翻訳文の言語

3. この国際出願は、ヌクレオチド又はアミノ酸配列を含んでおり、次の配列表に基づき見解書を作成した。

- ☐ この国際出願に含まれる書面による配列表
☐ この国際出願と共に提出された磁気ディスクによる配列表
☐ 出願後に、この国際予備審査(または調査)機関に提出された書面による配列表
☐ 出願後に、この国際予備審査(または調査)機関に提出された磁気ディスクによる配列表
☐ 出願後に提出した書面による配列表が出願時における国際出願の開示の範囲を超える事項を含まない旨の陳述書の提出があった
☐ 書面による配列表に記載した配列と磁気ディスクによる配列表に記載した配列が同一である旨の陳述書の提出があった。

4. 補正により、下記の書類が削除された。

- ☐ 明細書 第 _____ ページ
☐ 請求の範囲 第 _____ 項
☐ 図面 図面の第 _____ ページ/図

5. ☐ この見解書は、補充欄に示したように、補正が出願時における開示の範囲を越えてされたものと認められるので、その補正がされなかったものとして作成した。(PCT規則70.2(c))

V. 新規性、進歩性又は産業上の利用可能性についての法第13条（PCT規則66.2(a)(ii)に定める見解、それを裏付ける文献及び説明

1. 見解

新規性 (N)

請求の範囲 1 - 13 有
請求の範囲 無

進歩性 (IS)

請求の範囲 有
請求の範囲 1 - 13 無

産業上の利用可能性 (IA)

請求の範囲 1 - 13 有
請求の範囲 無

2. 文献及び説明

請求項1、2は、国際調査報告で引用された文献JP 2001-330890 A（松下電器産業株式会社）において、切り欠きを有するリフレクタと送風装置を備え、光源から出射された光をライトバルブにより変調して投写する投写型映像表示装置について示され、JP 10-241556 A（古河電気工業株式会社）において、複数並列配置した電極を有し、一方側電極でコロナ放電によってイオン化した空気を他方側電極で引き寄せて空気移動を生じさせて冷却する映像表示装置について示されているので、進歩性を有していない。

また、請求項3-13は、上記2つの文献に加えて、国際調査報告で引用された文献JP 2000-171920 A（ノーリツ鋼機株式会社）において、イオン風作成時に生じるオゾン、紫外線を照射して分解することについて示されているので、進歩性を有していない。

提出書類の様式及び作成要領について

答弁書及び手続補正書は、特許協力条約に基づく国際出願等に関する法律施行規則第62条（様式第23）及び同規則第31条（様式15）に従って作成して下さい。

(備考)

- (備考)
- 1 用紙は、日本工業規格A4 4 番 (横 21 cm、縦 29.7 cm) の大きさとし、可塑性のある、丈夫な、白色の、滑らかな、光沢のない、耐久性能のあるものを紙として、折らずに片面のみを用い、用紙には、必要な文字、記号、枠線、及び線等を記載してはならない。
 - 2 用紙には、しわ及び折れ目があり得てはならない。
 - 3 余白は、少なくとも用紙の上端、右端及び左端におのおの 2 cm 並びに左端に 2.5 cm をとるものとし、原則としてその上端及び左端についてはおのおの 4 cm 並びにその右端及び下端についてはおのおの 3 cm を越えないものとする。この場合において、余白は、完全な空白としておくこととする。ただし、上端の余白の左端で、かつ、左端の右端に 1.5 cm 以内に書類記号、簡書に記載されている場合に限り、その用紙に「氏名」を付記することとする。
 - 4 符号等は、タイプ印字又は刷印による、文字、枠線の方法、写真オフセット及びマイクロフィルム、又は直接に印刷された文字のいずれの方法でもできるものとする。
 - 5 各符号のすべては用紙には、アラビア数字により上から始まる連続番号を用紙 (余白部分を除く。) の上端又は下端の中央に付する。
 - 6 タイプ印字による場合においては、行の間隔は、少なくとも 5 mm 以上をとる。ただし、備考 1.1.、1.4 においてローマ字を用いるときは、1.5 文字の間隔とする。
 - 7 記載事項は、4 桁符号の大きさの文字 (備考 1.1.、1.4 においてローマ字を用いるときは、大文字の大きさの縦 0.2 cm 以上の文字) により、かつ、暗色の退色性のない色であって備考 4.1 に定める要件を満たすもので記載する。
 - 8 「国際図籍の表示」の欄には、既に付記された付印国際図籍の通知を受けている場合には、その符号を「PT」/「F」/「O」/「Q」/「O」/「O」の上に記載し、国際図籍の通知を受けている図の図名は、「国際図籍の表示」欄に月・年の後に「○○○○」、○○○○の図籍の図籍名 (年) については西暦記号 (2 桁) のように記載するとともに、書類番号 (簡書に記載されている場合に限り) を合わせて記載する。
 - 9 「氏名 (姓)」は、自然人にあっては姓及び名を姓、名の順に記載し、また、法人にあってはその名称を記載する。
 - 10 「あて名」は、「日本国、何国、何郡、何村、大字何、字何、何番地、何号」のように詳しく記載するとともに、郵便番号を記載する。
 - 11 氏名及びしは名符又はあて名は、これらの音訳又は英語への翻訳をローマ字を用いて併記する。
 - 12 「国籍」は、国籍人又は代表者がその国籍である国の国名を記載する。
 - 13 「住所」は、国籍人又は代表者がその居住者である国の国名を記載する。
 - 14 国名を記載する場合においては、特許庁長官が指定する国の名称を日本語及び英語により表示する。
 - 15 「代理人」の欄には、その氏名の記載に合わせて、その氏名の前に「非親土」、「非親土」又は「法定代理人」のうち該当するものを記載する。
 - 16 代理人によるときは本人の印は不要とし、代理人によるないときは「代理人」の欄を設けるには及ばない。
 - 17 各川籍においては、原則として捺押、訂正、重ね書き及び行間押入を行ってはならない。
 - 18 符号等の用紙は、容易に分離し、又はとじ直すことができるように例えばタブ等を用いてとじる。
 - 19 「あて名」は、出願人、代表者、代理人又は復代理人各人ごとに 1 つのあて名のみを記載する。
 - 20 「復代理人」の欄には、その氏名の記載に合わせて、その氏名の前に「非親土」又は「非親土」のうち該当するものを記載する。
 - 21 復代理人による場合は、代理人の印は不要とし、復代理人によるないときは「復代理人」の欄を設けるには及ばない。
 - 22 氏名は、西暦記号及びグレゴリー暦より、日についての数字、月についての数字及び年についての数字から 2 つの数字をこの順序に従ってそれぞれについて 2 桁のアラビア数字で表示し、かつ、日及び月の数字の後に 1 桁の付す (例えば 1978 年 3 月 30 日は「30.03.78」)。他の元元又は暦を用いる場合には、西暦記号及びグレゴリー暦による日付を併記する。

様式第23 (第62条関係)

	答	弁	書
特許庁審査官			殿
1 国際出願の表示			
2 出願人 (代表者)			
氏名 (名称)			
あて名			
国籍			
住所			
3 代理人			
氏名			
あて名			
4 通知の日付			
5 答弁の内容等			
6 添付書類の目録			

【備考】

- (編5)
- 1 法第6条の規定による命令に基づき補正をするときは要因を「手続補正書(法第6条の規定による命令に基づく補正)」とし、法第11条の規定により補正をするときは「手続補正書(法第11条の規定による補正)」とし、令第1条第2項の規定による命令に基づき補正をするときは「手続補正書(令第1条第2項の規定による命令に基づく補正)」とし、第27条の3第1項の規定により補正をするときは「手続補正書(第27条の3第1項の規定による補正)」とし、第2条第2項第1項の規定による命令に基づき補正をするときは「手続補正書(第2条第2項第1項の規定による命令に基づく補正)」とし、第50条の3第3項の規定によりフレキシブルディスクを提出するときは、第50条の3第5項の規定による命令に基づくフレキシブルディスクを提出するとともに、第50条の3第6項の規定による命令に基づくフレキシブルディスクを提出するとし、第50条の3第5項第1項の規定による命令に基づく複製品を提出した旨を証明する書面を提出するとし、第50条の3第6項の規定による命令に基づく複製品を提出した旨を証明する書面を提出するとし、第50条の3第8項の規定による命令に基づき補正をするときは、「手続補正書(第50条の3第8項の規定による命令に基づく補正)」とする。
- 2 提出先は、特許庁若しくは審査官が審査官又は補正の機会を付与した場合においては当該特許庁若しくは審査官、その他の場合においては特許庁長官とする。
- 3 「補正の対価」の欄には、「願書の口、出願人の額」のように補正をする書類名と補正をする内訳を記載する。
- 4 「補正の内訳」の欄には、「別紙のとおり」と記載するとともに補正事項を指摘し、補正のたのめ若しくは用紙を別紙として添付する。ただし、補正の結果、用紙の全体が別紙となる場合となる命令(法第6条、令第1条第2項、第2条第2項第1項及び第50条の3第5項の規定による命令)に基づき補正する事項は、補正のたのめ若しくは用紙が容易にできることは懸念され用紙に用いることを要しない。なお、法第11条の規定による補正のための特許大用紙を添付する場合には、用紙の切りりよう及び直接複製型に影写を及ぼさないことを条件として、先に提出した特許大の用紙に用いることにより、差出人が負担することができる。

- 5 請求の範囲について修正をするときは、当該修正に係る請求の範囲を次のように記録した特許用紙を添付する。
- イ 新たに請求の範囲を追加するときは、その追加する請求の範囲に修正前の請求の範囲の最後のものに付した番号を「○（追加）」のように記載する。
- ロ いずれかの請求の範囲を削除するときは、その削除する請求の範囲に付されている番号を「○（削除）」のように記載する。
- ハ 請求の範囲の数を増減せずに修正するときは、その修正された請求の範囲に修正前の請求の範囲の番号と同一の番号を「○（結ば替）」のように記載する。
- 6 第5条の4第3項の規定によりフレキシブルディスクを提出するときは又は第5条の4第3項第5項の規定に基づきフレキシブルディスクを提出するときは、次の要項で記録する。
- イ 「添付書類目録」の欄に次のように記載する。
- 5 添付書類の目録 1 配列表に関するロードデータを記録したフレキシブルディスク 1枚
- 2 陳述書 1通
- 3 フレキシブルディスクの記録形式等の情報を記録した書面 1通
- ロ 「従書」は、原則として次の文例により作成する。「国際出願の表示」の項目は、備考15に従って記載する。

陳述哲

特許庁長官 殿
本書に添付したフレキシブルディスクに記録した塩基配列又はアミノ酸配列は、明細書に記載した塩基配列又はアミノ酸配列を忠実にコード化したものであって、内容を変更したものでないことを陳述します。

平成 年 月 日

出願の表示

明の名称

(印)

- 特許出願人・代理人
- ハ「フレキシブルディスクの記録形式等の情報を記載した書面」は、原則として、「出願人氏名(名称)」、「代理人氏名(名称)」、「国際出願の表示」、「国名(名称)」、「使用した文字コード」、「配列を記録したディスク及び「連続番号」、「發明の名称」、「氏名」の項目を設けて記載することにより作成する。
- ニ「5 補正の対象」及び「6 補正の内容」の欄は設けない。
- 三第50条の3第6項の規定による命令に基づき配列表を記載した書面を提出するときは、「7 添付書類の目録」の欄に次のように記載し、「5 補正の対象」及び「6 補正の内容」の欄は設けない。
- 5 添付書類の目録 1 配列表を記載した書面 1 通
- 6 用紙は、日本工業規格A判4号(横21cm×29.7cm)の大きさとし、可塑性のある、丈夫な、白色の、滑らかな、光沢のない、耐久性のあるものを縦長にして、折らずに片面のみを用い、用紙には、不要な文字、記号、挿線、いれ線等を記載してはならない。
- 7 用紙には、しわ及び摺り目があるてはならない。
- 10 余白は、少なくとも用紙の上端、右端及び左端におおの2cm並びに左端に2.5cmを占めるものとし、原則としてその上端及び左端に記すにはおの4cm並びにその右端及び下端に記すにはおの3cmを越えないものとする。この点において、余白は、完全な空白としておくこととする。ただし、上端の余白の左端であつて上端から1.5cm以内に番組番号(番組に記載される場合を除く)を付すことができる。
- 11 手続補正書は、タイプ印字又は印刷によるものとし、写真、静電的方法、写真オセット及びマイクログラフムによって直接に任意の部数の複製をすることができるように作成する。
- 12 手続補正書のすべての用紙には、アラビア数字により1から始まる連続番号を用紙(余白部分を除く。)の右端又は下端の中央に付する。
- 13 タイプ印字による場合において、行の間隔は、少なくとも5mm以上とする。ただし、備考16、19においてローマ字を用いるときは1.5文字の幅とする。
- 14 記載事項は、4号活字の大きさの文字(備考16、19においてローマ字を用いるときは、大文字の大きさを約0.21cm以上の文字)により、かつ、暗色の消色性のない色であつて備考9に定める要件を満たすものと記載する。
- 15 「国際出願の表示」の欄には、特に特許庁から国際出願番号の通知を受けた場合には、「番号を」を「C/P」/「O」/「O」/「O」/「O」/「O」の順によりに記載し、国際出願番号の通知を受けない場合には、その国際出願の提出日を月年(例)の順に「O」/「O」/「O」/「O」の順に「国際出願」の後に記す。又は西暦(例)の下折)のように記載するとともに、番組番号(番組に記載されていなければならぬ)を含むて記載する。
- 16 「氏名(名称)」は、自然人にあっては姓及び名を姓、名の順に記載し、また、法人にあってはその名称を記載する。
- 17 「あて名」は、「日本国、何県、何町、何村、大字何、字何、何番地、何号」のように詳しく記載するとともに、郵便番号を記載する。
- 18 氏名若しくは名称又はあて名には、これらの音訳又は漢字への翻訳をローマ字を用いて併記する。
- 19 「国籍」は、出願人又は代表者がその国氏である国の国名を記載する。
- 20 「住所」は、出願人又は代表者がその居住者である国の国名を記載する。
- 21 国名を記載する場合においては、特許庁長官が指定する国名を日本語及び英語により表示する。
- 22 「代理人」の欄には、その氏名の記載に合わせて、その氏名の前に「弁護士」、「弁理士」又は「法定代理人」のうち該当するものを記載する。
- 23 代理人にあってはときは代理人の印は不要とし、代理人にその氏名又は「代理人」の欄を設けるには及ばない。
- 24 各用紙においては、原則として捺消、訂正、重ね書き及び行間押入を行つてはならない。
- 25 手続補正書の用紙は、容易に分離し、又は二枚合わせることができるように例えばクリップ等を用いて正す。
- 26 「あて名」は出願人、代表者、代理人又は復代理人各人ごとに1つのあて名のみを記載する。
- 27 「復代理人」の欄には、その氏名の記載に合わせて、その氏名の前に「弁護士」又は「弁理士」のうち該当するものを記載する。
- 28 復代理人にあってはときは代理人の印は不要とし、復代理人にその氏名又は「復代理人」の欄を設けるには及ばない。
- 29 日付、西暦又はグレゴリー暦により、日についての数字、月についての数字及び年にあつての暦から2つの数字をこの順序に従つてそれぞれについて2桁のアラビア数字で表示し、かつ、日及び月の数字の後にピリオドを付す(例えば1978年3月30日は「30.0.3.78」)。他の紀元又は暦を用いる場合には、西暦紀元及びグレゴリー暦による日付を併記する。

様式第15 (第31条関係)

手 続 正 符

特許庁長官 殿
(特許庁審査官 殿)

1 国費出願の表示

2 出願人 (代表者)
氏名 (名称)
あて名
国籍
住所

3 代理人
氏名
あて名

4 矯正命令の日付

5 矯正の対象

6 矯正の内容等

7 送付書類の目録